



JSPS BEIJING OFFICE

2026-2027

目次

はじめに.....	2
基幹事業：科学研究費助成事業（科研費）.....	2
主な国際交流事業.....	3
外国人研究者招へい事業	
外国人研究者再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）	
二国間交流事業（共同研究・セミナー）	
日中韓学術振興機関長会議（A-HORCS）	
日中韓フォーサイト事業	
グローバルリサーチカウンスル（GRC）	
HOPE ミーティング	
海外研究連絡センター	
研究者コミュニティ形成支援	
研究者ネットワーク支援サービス（JSPS-Net）	
北京研究連絡センターの活動内容.....	5
中国の学術振興機関との連携	
JSPS 中国同窓会	
JSPS 韓国同窓会	
日中共同学術シンポジウムの開催	
大学等の海外活動展開支援	
在中国日本人研究者ネットワーク	
希平会（日中高等教育交流連絡会）の運営	
学術情報の発信、収集	
2025 年度活動実績	

日本学術振興会
北京研究連絡センター

はじめに

独立行政法人日本学術振興会（Japan Society for the Promotion of Science）は、独立行政法人日本学術振興会法に基づき、学術研究の助成、研究者の養成のための資金の支給、学術に関する国際交流の促進、その他学術の振興に関する事業を行うため、平成 15（2003）年 10 月 1 日に設立された文部科学省所管の独立行政法人です。

本会の前身は、昭和天皇から学術奨励のため文部大臣に下賜された 150 万円により、昭和 7（1932）年 12 月に創設された財団法人日本学術振興会であり、その後、昭和 42（1967）年 9 月に日本学術振興会法に基づき、特殊法人となりました。70 年余にわたり日本の学術振興を担う中核機関として様々な事業を展開してきましたが、平成 15（2003）年 10 月、業務の弾力化・効率化を図り、研究者や学術研究機関へのサービスの一層の向上をめざして、独立行政法人として設置されました。

創設以来、学術の振興を目的とする日本唯一の独立した資金配分機関（ファンディングエージェンシー）として、研究者の活動を安定的・継続的に支援するための諸事業を積極的に実施しています。日本学術振興会では、学術に関する国際交流における日本と諸外国との関係強化を図るため、9 か国 10 か所に海外研究連絡センターを設置しています。北京研究連絡センターは 2007 年に設立され、中国の学術振興機関及び大学等研究機関との連携強化や多様な国際交流事業の展開に努めています。

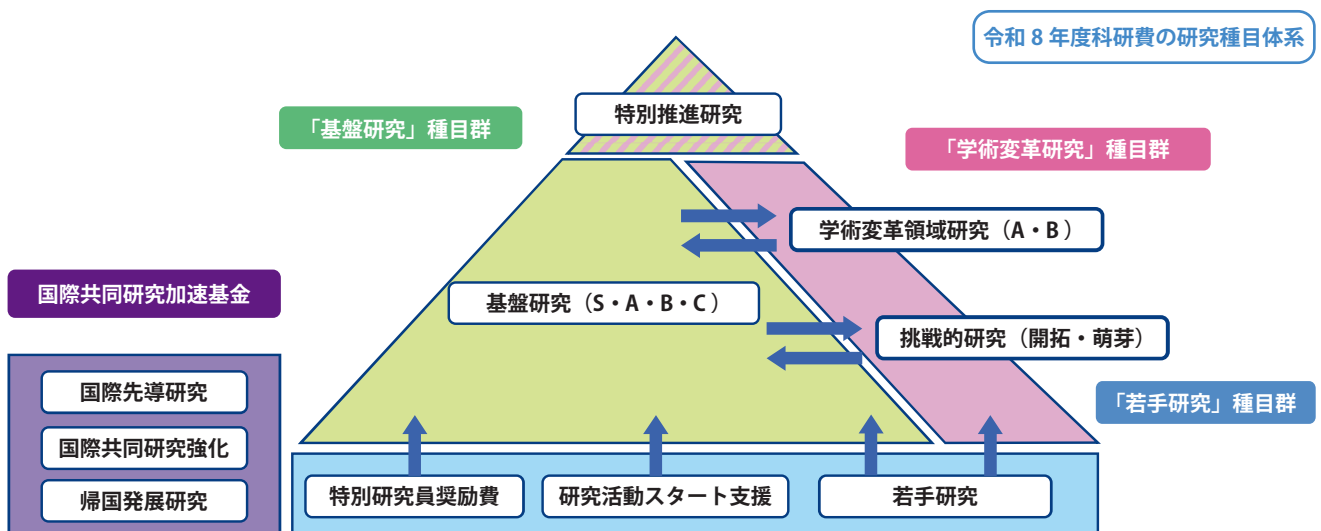
基幹事業：科学研究費助成金（科研費）

科学研究費助成事業（科研費）は、全国の大学や研究機関等において実施されている研究活動に必要な資金を研究者に助成する仕組みの 1 つで、人文学、社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる独創的・先駆的な「学術研究」を対象としています。



<https://www.jpsps.go.jp/j-grantsinaid/>

科研費は日本最大規模の競争的研究費制度です。令和 8（2026）年度予算額は 2,479 億円にのぼり、令和 7（2025）年度には約 9.5 万件の新たな応募の中から、約 2.6 万件の研究課題が採択されています。





主な国際交流事業

日本学術振興会では研究者の日本への招へい事業をはじめ、世界トップレベルを目指す大型研究、研究拠点の形成、対応機関との協定に基づく少人数グループでの共同研究、若手研究者の育成等、研究の形態や規模にきめ細かく対応した事業を展開しています。各事業とも、中国の機関・研究者の参画・採用があります。

外国人研究者招へい事業



<p>◆ 外国人特別研究員事業</p> <p>外国の若手研究者に対し、日本の大学等研究機関において日本側受入研究者の指導のもとに共同して研究に従事する機会を提供するプログラムです。</p> <p>https://www.jsps.go.jp/j-fellow/</p> <p>対象分野： 人文学、社会科学及び自然科学の全分野</p> <p>支給経費： <ul style="list-style-type: none"> ■ 渡航費：往復国際航空券（現物支給） （本会の規定による。） ■ 海外旅行保険 ■ 滞在費：月額 362,000 円 ■ 渡日一時金：定額 200,000 円 </p> <p>※ 2025 年度採用状況： 申請数 2628 件、採用数 270 件、採用率 10.3% <ul style="list-style-type: none"> ・中国研究者採用実績：85 名 </p>	<p>◆ 外国人招へい研究者事業</p> <p>外国の中堅から教授級の外国人研究者を短期または長期間日本に招へいし、日本の研究者との討議、意見交換、講演等を行う機会や特定の研究課題についての共同研究を行う機会を提供するプログラムです。</p> <p>https://www.jsps.go.jp/j-inv/</p> <p>対象分野： 人文学、社会科学及び自然科学の全分野</p> <p>支給経費： <ul style="list-style-type: none"> ■ 渡航費：往復国際航空券（現物支給） （本会の規定による。） ■ 海外旅行保険 ■ 短期滞在費：日額 18,000 円 ■ 長期滞在費：月額 387,600 円 </p> <p>※ 2025 年度採用状況： <ul style="list-style-type: none"> 短期：申請数 743 件、採用数 160 件、採用率 21.5% 長期：申請数 236 件、採用数 60 件、採用率 25.4% <ul style="list-style-type: none"> ・中国研究者採用実績：22 名（短期 16 名、長期 6 名） </p>
---	--

外国人研究者再招へい事業（BRIDGE Fellowship Program）

本会の外国人特別研究員事業等に採用されて来日し、日本での研究活動を終了した外国人研究者（JSPS 同窓会会員）に対し、再度来日して日本人研究者との研究協力関係を形成・維持・強化する機会を提供する事業です。

<https://www.jsps.go.jp/j-plaza/bridge/index.html>

※ 2026 年度採用状況：中国同窓会 4 名、韓国同窓会 2 名

二国間交流事業（共同研究・セミナー）

日本学術振興会と海外の学術振興機関との間で締結した覚書等に基づき、個々の研究者交流を発展させた二国間の研究チーム等の持続的ネットワーク形成を目指しています。

<https://www.jsps.go.jp/j-bilat/semina/gaiyou.html>

【2027 年度中国側対応機関との交流事業】

対応機関	中国科学院 (CAS)		中国社会科学院 (CASS)	中国国家自然科学基金委員 (NSFC)	
対象分野	自然科学		人文学、社会科学	自然科学	
実施形態	共同研究	セミナー	共同研究	共同研究	セミナー
支援期間	3 年間	1 週間以内	1 年～2 年 9 ヶ月	2 年 9 ヶ月	1 週間以内
採用予定件数	3	2	1	20	4
採用状況 (2025 年度)	申請数 16 件 採用数 3 件	申請数 1 件 採用数 1 件	申請数 7 件 採用数 1 件	申請数 170 件 採用数 20 件	申請数 28 件 採用数 4 件

※対象分野は年度によって異なります。

日中韓学術振興機関長会議（A-HORCs）

日本、中国、韓国の学術協力を中核としてアジアにおいてハイレベルの研究活動を振興していくため、3 か国を代表する学術振興機関の長が、各国の科学技術政策の動向や国際協力の在り方などについて直接対話を行うことを目的として、開催されています。2003 年から毎年開催されており、日中韓フォーサイト事業や北東アジアシンポジウムを共同実施するなど、大きな成果を挙げています。



二国間交流事業セミナー（2025.11.30、成都）



第 22 回 A-HORCs 会議集合写真（2025.11.3-5、金沢）

日中韓フォーサイト事業

日本と中国国家自然科学基金委員会（NSFC）、韓国研究財団（NRF）及び 3 か国の研究教育機関が連携し、世界トップレベルの学術研究、地域共通の課題解決に資する研究及び優秀な若手研究者の養成を行うことにより、アジアにおいて、3 か国を中核とした世界的水準の研究教育拠点構築を目指す事業です。

<https://www.jsps.go.jp/j-foresight/>

実施テーマ：

【2026 年度】脳のマルチモーダル解析における新たな展望

【2025 年度】生命の理解を深める合成生物学

支援金額・期間：5,000 万円以内／件／5 年間

グローバルリサーチカウンシル（GRC）

GRC（Global Research Council）は世界各国の学術振興機関の長によるフォーラムであり、各機関が連携を強めることでサイエンスの質を高め、単独では解決できない課題に対応するために、2012 年 5 月に米国科学財団 NSF の提唱により設立されました。年次会合及びその準備会合に位置付けられる 5 つの地域会合がそれぞれ年 1 回開催されます。日本学術振興会は、GRC 設立当初から GRC の運営に積極的に携わっています。

<https://www.jsps.go.jp/j-grc/>



HOPE ミーティング

アジア・太平洋・アフリカ地域等の科学技術研究の将来を担う若手研究者の育成と相互のネットワーク形成を目的として、域内から選抜された優秀な大学院生等とノーベル賞受賞者をはじめとする著名研究者が交流する国際会議を開催しています。中国からの参加者は、中国国家自然科学基金委員会（NSFC）が推薦しています。

<http://www.jsps.go.jp/hope/>



第 17 回会議（2026.3.2-6、つくば）

1. 中国参加者等記念撮影 2. ポスター発表を聴くハント博士と梶田博士 3. 集合写真

海外研究連絡センター

日本学術振興会は、学術に関する国際交流における日本と諸外国との関係強化を図るため、9 か国 10 か所に海外研究連絡センターを設置しています。また、ブラジル・サンパウロに、海外アドバイザーを設置しています。

https://www.jsps.go.jp/j-kaigai_center/

研究者コミュニティ形成支援

学振の国際事業の採用期間終了後も外国人研究者間のネットワークを継続できるよう、事業経験者による研究者コミュニティのフォローアップ活動を支援しています。現在、21 か国において学振が認定した同窓会が組織されています。これらの組織は、セミナーやシンポジウムなどのイベントを実施し、ニュースレター等を発行することで、日本との交流促進を図り、また、学振はこのような活動を支援することで、新たに日本に関心をもつ若手研究者を育てることを目指しています。

<https://www.jsps.go.jp/english/e-alumni/index.html>

研究者ネットワーク支援サービス（JSPS-Net）

日本学術振興会は、世界中で活躍する研究者の「輪」を支援します。JSPS-Net は、研究者や研究支援に携わる方々のネットワーキングを支援し、その更なる拡大を後押しすることで、研究者の国際的な交流、活躍の一助となることを目指すものです。主な機能：グループ機能、イベント機能、研究者コネクション。

<https://www-jsps-net.jsps.go.jp/>

北京研究連絡センターの活動内容

中国の学術振興機関との連携

日本学術振興会は中国において科学技術・教育分野を担当する以下の4つの国家機関と協力して、事業を進めています。北京研究連絡センターにおいては、これらの機関との連携を強化し、多彩な国際交流事業の展開に努めています（機関名は交流開始順）。

中国科学院（CAS）【1979年】

中国社会科学院（CASS）【1980年】

中国教育部（MOE）【1981年】

中国国家自然科学基金委員会（NSFC）【1996年】



JSPS 中国同窓会

2010年11月に、JSPSが実施する各種事業の経験者らによる「JSPS 中国同窓会」が発足しました。当センターが事務局を担当し、会の運営に必要な事務を行うとともに、シンポジウム、セミナー、事業説明会開催等、同会の活動を積極的に支援しています。

2026年5月現在の会員数：約1,420名

<https://www.jspso.org.cn/jspsobj/site/txh/clzzjp.htm>



セミナー (2025.5.18、武漢)



事業説明会 (2025.9.17、成都)



セミナー (2025.11.1、大連)



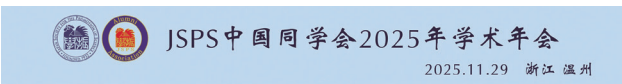
事業説明会 (2025.11.2、大連)



セミナー (2025.11.8、武漢)



セミナー (2025.11.12、杭州)



総会 (2025.11.29、温州)

JSPS 韓国同窓会

2023年からJSPS 韓国同窓会と共同でシンポジウムを開催しています。

2026年5月現在の会員数：約530名



シンポジウム (2025.2.14、ソウル)

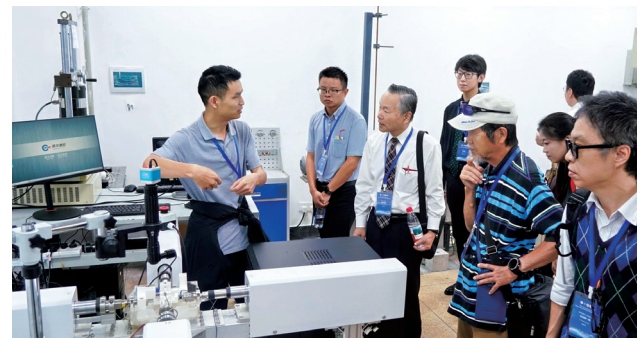


日韓国交正常化60周年記念シンポジウム (2025.9.26、ソウル)

日中共同学術シンポジウムの開催

中国の学術振興機関と連携し、シンポジウムやセミナー等の様々なイベントを中国各地で開催しています。

<https://www.jspso.org.cn/jspsobj/site/dbcgy/ythjp.htm>



第9回 NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム (2025.9.19-20、成都)



大学等の海外活動展開支援

在中国大使館や中国に事務所を置く日本の大学等機関と連携し、留学説明会やフォーラム等のイベント開催に協力しています。



一橋大学学生訪中国 (2026.3.21、北京)

在中国日本人研究者ネットワーク

当センターでは、中国国内の大学、その他公的な研究機関、及び企業で研究に従事されている中国在留日本人研究者の皆様のネットワーク構築に取り組んでおります。日本人研究者の皆様が、日々の研究活動や中国での生活、日中の研究費配分機関等について情報交換ができる場を提供するとともに、皆様のご要望に応じて、日本学術振興会として、科研費や研究者招へい事業等の情報を提供しております。

<https://www.jsps.org.cn/jpsbj/site/rbxz/rbxzjp.ht>



第10回さろん (2025.7.11、北京) 第11回さろん (2026.1.16、北京)

希平会 (日中高等教育交流連絡会) の運営

希平会 (日中高等教育交流連絡会) とは、中国に事務所、拠点、同窓会組織等を持つ日本の大学、研究所、政府系機関等を中心に組織された団体です。当センターが希平会の事務局を担当しています。

2026年5月現在の会員数：会員44、オブザーバー15

<https://www.jsps.org.cn/jpsbj/site/xph/gyxphjp.htm>



総会 (2025.10.24、北京)

連絡会 (2026.4.16、上海)

学術情報の収集・発信

当センターは、ホームページ、ニュースレター『学思』等を通じて最新の情報を発信しています。



ホームページ



『学思』

2025年度活動実績 (2025.4-2026.3)

主催 / 協力イベント	
2025.6.27	2025年度希平会第1回連絡会
2025.7.11	第10回在中国日本人研究者ネットワークさろん (北京大学)
2025.8.8	JSPS 北京センター新事務所お披露目会
2025.9.19-20	2025 NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム
2025.10.24	2025年度希平会総会
2025.11.10	JSPS 事業説明会 (中国科学院紫金山天文台)
2026.1.16	第11回在中国日本人研究者ネットワークさろん (北京脳科学・脳型知能研究所)
2026.1.30	2025年度希平会第2回連絡会

同窓会活動	
2025.5.18	JSPS 中国同窓会湖北支部会セミナー (中国地質大学 (武漢))
2025.7.7	JSPS モンゴル同窓会年会・交流会 (ウランバートル)
2025.9.17	JSPS 事業説明会 (電子科技大学)
2025.9.26	日韓国交正常化60周年記念 - JSPS 韓国同窓会シンポジウム (ソウル大学)
2025.11.1	JSPS 中国同窓会遼寧支部会セミナー (大連大学)
2025.11.2	JSPS 事業説明会 (大連理工大学)
2025.11.8	JSPS 中国同窓会湖北支部会セミナー (中国農業科学院油料作物研究所)
2025.11.12	JSPS 中国同窓会浙江支部会セミナー (杭州電子科技大学)
2025.11.29	JSPS 中国同窓会総会 (温州大学)
2026.1.27	BRIDGE Fellowship Program 中国選考審査会 (JSPS 北京センター)



本会シンボルマークは、古来、暁を象徴するものとして知られている「長鳴鳥（ながなきどり）」を、昭和13年に東京美術学校の和田三造教授が図案化したものです。長鳴鳥は、古事記において知恵を司る神である思金神（おもいかね）が天の石屋戸を開くため、常世（不死）の長鳴鳥を集めて鳴かせたと記されています。また、昭和天皇の御製「夢さめて我が世を思ふ 暁に長鳴き鳥の聲ぞ聞こゆる」にも読まれています。

日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING OFFICE

北京市朝陽区東三环北路5号 北京發展大廈1021室

Tel: +86-10-8882-4331

E-mail: beijing@jsps.org.cn

URL: www.jsps.org.cn



WeChat

